聞きたるまゝ

泉鏡花作

全一章

吾聞く、東坡が洗兒詩に、人皆養子望聰明。我被聰明誤一生。孩兒愚且魯、無災無難到公卿。

又李白の子を祝する句に曰く、揚杯祝願無他語、謹勿頑愚似汝爺矣。家庭先生以て如何となす？

吾聞く、昔は呉道子、地獄變相の圖を作る。成都の人、一度是を見るや咸く戰寒して罪を懼れ、福を修せざるなく、ために牛肉賣れず、魚乾く。

漢の桓帝の時、劉褒、雲漢の圖を畫く、見るもの暑を覺ゆ。又北風の圓を畫く、見るもの寒を覺ゆ。

呉の孫權、或時、曹再興をして屏風に畫かしむ、畫伯筆を取つて誤つて落して素きに點打つ。因つてごまかして、蠅となす、孫權其の眞なることを疑う

て手を以て彈いて姫を顧みて笑ふといへり。王右丞が詩に、屏風誤點惑孫郎。團扇草書輕内史。

吾聞く、魏の明帝、洛水に遊べる事あり。波蒼くして白獺あり。妖婦の浴するが如く美にして愛す可し。人の至るを見るや、心ある如くして直ちに潜る。帝頻に再び見んことを欲して終に如何ともすること能はず。侍中進んで曰く、獺や鯔魚を嗜む、猫にまたゝびと承る。臣願くは是を能くせんと、板に畫いて兩生の鯔魚を躍らし、岸に懸けて水を窺ふ。未だ數分ならざるに、群獺忽ち競逐うて勢死を避けず、執待て輙獻ず。鯔魚を畫くものは徐景山也。

劉填が妹は陽王の妃なり。陽王誅せられて後追慕哀傷して疾となる。婦人の此疾古より癒ゆること難し。時に殷〓善く畫く、就中人の面を寫すに長ず。劉填密に計を案じ、〓に命じて鏡中雙鸞の圖を造らしむ、圖する處は、陽王其の寵姫の肩を抱き、頰を相合せて、二人ニヤ／＼として將に寢ねんと欲するが如きもの。舌たるくして面を向くべからず。取つて以て乳媼をして妹妃に見せしむo妃、嬌嫉火の如

く、罵つて云く、えゝ最うどうしようねと、病癒えたりと云ふ。敢て説あることなし、吾聞くのみ。

【完】